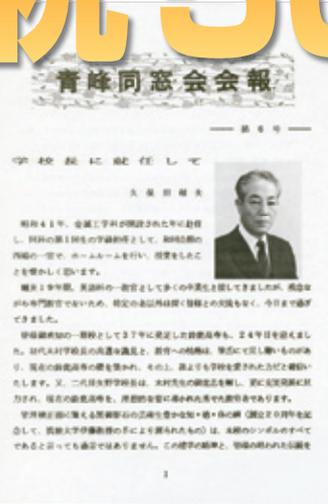


# 青峰同窓会会報

## 祝50周年



## 会長挨拶

青峰同窓会会長  
小手川 智(42C卒)



### 開校50周年記念事業を成功させよう

輝かしい新年を迎え皆様のご清福をお祈りいたします。昨年は災害の多い年でした。3月11日に東日本大震災が発生し同時に東京電力福島原発の崩壊による放射能汚染と言う未曾有の大災害となりました。日本のみならず世界中が固唾をのんで事の成り行きを見守っておりました。最先端の科学技術もあつげなく自然災害によって崩れ去り、これの解決に今後数十年もかかると言われております。三重県においても8月に台風12号によって紀伊半島南部で甚大な被害を受けました。今年は災害の復旧、復興に向かって早く、大きく前進することを心からお祈りします。

さて今年には母校鈴鹿高専の開校50周年にあたる記念すべき年です。今年11月3日に記念式典の開催が決定致しました。これに合わせて祝賀会や記念講演等々様々な行事が予定されます。同窓会におきましても学校に対して出来る限りの支援をしてまいりますので会員の皆様のご協力をお願い致します。50周年記

念行事には多くの卒業生や教職員OBに参列していただいて盛大なものにしたいと考えております。行事の内容については別途お知らせ致します。

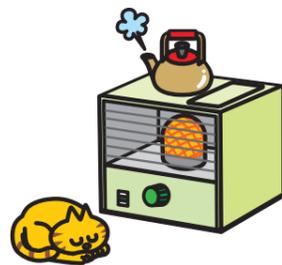
50周年に当たり学校から同窓会に対して下記2項の出資要請があります。

その1. 第3学生寮を改修する費用の一部負担です。目的は多目的に使用出来る建物に改修するという事です。学生の部活やロボコンなどの試験研究や同窓会も使用出来る等が考えられています。1000万円程度の支出になります。

その2. 学生の創造教育支援のための基金を設立する案です。毎年100万円を10年継続出資という事です。

以上多額の出資になりますので総会を開催してお諮りすることになります。開催は3月の予定です。日程が決定しましたら同窓会HP等でお知らせします。

最後に50周年記念事業に絶大なるご支援を賜るよう重ねてお申しあげます。



## 校長挨拶

校長 高橋 誠記



現在、本校には、専攻科生を含め、1,149名の学生が在籍していますが、一番フレッシュな1年生213名は、創設以来50番目の入学生です。本校は、半世紀の歴史を刻んで、来年度から次の一步を踏み出すことになりました。今日まで賜りました暖かい御理解と多大な御支援に対し、改めて感謝申し上げたいと思います。

さて、高度経済成長期に、高専の栄誉ある一期校として設置された本校ですが、環境は大きく変化しました。合計特殊出生率の低下、産業構造の変化、財政赤字の拡大は当時の想定を上回ります。10%台の高等教育進学率は専修学校を含め80%に達し、自動車、電気製品、携帯電話、コンピュータ、インターネットの普及と相俟って、生活スタイルや意識とともに、急激に成熟化の時代を迎えました。そして、近年の日本は多くの課題を抱えるに至っていましたが、東日本大震災、福島原発事故からの復旧・復興が加わってしまいました。タイの洪水、EUの金融危機の影響もあり、製造業は「六重苦」にあるとさえ言われています。このような中、三菱総研の小宮山宏理事長は、他の先進国に先駆けて顕在化している諸課題を解決し「課題解決先進国」として国際的地位を高めることが日本の進むべき道だと主張されています。

高専は、「職業に必要な能力を育成する」ことを目的に、経済成長を支える「中堅技術者」が人材養成像でしたが、現在は、「幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者」とされています。「不確実性」「乱気流」の時代は続きますが、今後は「課題解決先進国」を担う逞しい人材の養成を目指していく必要があります。

本校では、産業経済の動向の変化に対応して、学科の増設や改組転換を進め、2003年までに、機械工学、電気電子工学、電子情報工学、生物応用化学、材料工学の5学科と1専攻科という現在の体制になりました。2004年には学科の4、5年と専攻科からなる複合型生産システム工学プログラムがJABEEの認定を受け、技術者教育の国際的スタンダードを目指しています。実際、就職先、進学先での評価は高く、学業も教職員の真摯な取組と学生の努力により着実に成果を挙げています。剣道、バスケット、陸上競技などの活躍ぶりは本校の存在感を高め、ロボット、ソーラーカーなど各種プロジェクトも確実に力をつけています。高専祭も、ウォーターボーイズや5年生のパフォーマンス「メモリーズ」が定着、学科展示等の質も向上して、多くの来場者に感動を与えています。このような現状にある本校ですが、今後を展望した時にいくつの懸念材料があります。独立行政法人化による毎年の予算削減、大学の工学教育改革による高専技術者教育の相対化、進学者の増加と高専の存在意義、少子化による志願率と学力レベルの低下などであり、課題を解決し「先進校」として存在感を高める取組が必要です。「課題解決先進国」をめざす産業政策や科学技術政策の焦点は「価値創造」に向かっています。「第4次科学技術基本計画」のキーワードは、「グリーン」と「ライフ」のイノベーションです。この点に関し、本校ではいくつかのチャレンジングな取組みを行ってきました。「女子中高生の理系進路選択支援事業」、環境教育と創造工学を組み合わせ「環境志向・価値創造型エンジニアの養成」プログラム、地域の人材養成に協力する経産省事業と地域企業の技術力を高専の人材養成に活かす文科省事業などです。また、2007年の法改正で、高専は「その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」とされています。本校が、人材養成をはじめ「わが国産業発展を支える技術創造に貢献する」ことを目指す十分な理由があります。企業で活躍し大学でサイエンスを学ぶ基礎を完成させる技術者養成、小中学生を対象とする公開講座、地域企業のニーズと高専の研究シーズのマッチングによる相互裨益をこうした広い文脈で考えるべきと考えます。グローバルを見据えた地域という空間軸と、青少年から企業人、教育研究者までの時間軸の中で考えられる知恵が、出会い、融合し、循環するイノベーションをめざすことが重要です。既に、教職員として活躍しているOBもいますが、他のOBの皆様にもこの循環の輪に加わっていただきたいと思っております。

本校では、50周年を控え、様々な記念行事を予定しています。中でも、第3寮の改修により構想しているフュージョンプレイス「テクネの館」は、以上のような融合による「創造の場」を想定しています。また、「先進的エンジニア教育支援基金(50th Memorial Fund)」は、技術者養成に不可欠となっているエンジニアリングデザイン教育、創成教育、語学力を含むコミュニケーション能力養成などに活用する予定です。50年前の先輩に常に思いを寄せるという意味合いもあります。

鈴鹿高専の伝統の上に、50周年を期に更なる充実発展を目指したいと考えていますので、今後とも御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

## contents

会長挨拶…………… 2	● 新任教職員…………… 5
■ 小手川 智	■ 船越 邦夫(生物応用化学科)
	■ 南部 紘一郎(機械工学科)
校長挨拶…………… 3	■ 山田 伊智子(電気電子工学科)
■ 高橋 誠記	■ 甲斐 穂高(生物応用化学科)
	■ 幸後 健(材料工学科)
鈴鹿高専創立50周年を 迎えるにあたって…………… 4	● 同窓会総会開催予定、 「卒業生名簿」発行について…………… 7
■ 江崎 尚和	● 青峰同窓会SNS…………… 8

## 鈴鹿高専創立50周年を迎えるにあたって

創立50周年記念事業委員会委員長  
渉外担当主事(校長補佐)

江崎 尚和(52H卒)

卒業生の皆様におかれましては益々のご健勝ならびにご活躍を心よりお喜び申し上げます。母校である鈴鹿高専は喜ばしいことに平成24年度で創立50周年を迎えることになりました。私は昭和47年に鈴鹿高専の金属工学科に第11期生として入学しておりますが、丁度その年は創立10周年に当たる年でありました。10周年記念誌を頂いたこと、校門を入ってすぐ正面に10周年を記念して校歌の碑が建てられたことなどを今でもよく記憶しています。あれからさらに40年の年月が過ぎ去り、50周年を迎えたのかと考えますと感慨深いものがあります。当然のことではありますが、まさか自分が50周年を祝う記念事業の企画・実施に携わることになるうとは当時は夢にも思っておりませんでした。やはり「50年」「半世紀」の言葉には特別の重みがあります。そのことを考えますと記念事業の実施に重大な責任を感じている次第であります。



私が母校の教員として赴任してきたのは平成6年で、今年が18年目になります。学生時代の5年を加えても鈴鹿高専で過ごした期間は23年間とその歴史の半分にも満たない期間ですが、振り返ってみますとやはりこの10年が50年の歴史の中でも大変大きな転換を迎えた時期ではないかと思えます。平成16年には文部科学省の直轄であった全国の国立高専が独立行政法人「国立高等専門学校機構」が管轄する学校へと変わりました。いわゆる法人化され、組織上の大改変が行われたことに伴って、教育目的が「実践的な中堅技術者の育成」から「実践的で創造的な技術者の育成」に代わり、教員の職務も「教育」だけでなく「教育と研究」になった他、社会貢献や地域貢献が重要な職務として位置づけられるようになりました。また、教育内容や方法も時代の要請により大きく変化し多様化してきた期間でもあるかと思えます。特に、日本技術者教育認定機構(JABEE)による高等教育機関の工学教育の質と国際的レベルを保証するための認定制度が広まり、技術者としての国際化や、座学・実験実習では養えないエンジニアリングデザイン能力の育成を求められるようになりました。また、高等教育機関としての教育研究水準の向上のため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、文部科学大臣が認証する評価機関(認証評価機関)の実施する評価を7年以内ごとに受けることが義務付けられました。これらにより、常に教育内容ならびに教育体制について継続的な改善を図る努力が要求されるようになりました。赴任してきた当時から比べますと、教職員の負担ははるかに大きくなったものの、教育を受ける学生側から考えるとよりよい教育を受けられる環境が確実に充実してきています。

さて、50周年記念事業の概要ですが、イベントといたしまして記念式典、記念講演会および祝賀会のほか、記念高専祭ならびに体育祭、音楽部による記念演奏会などを計画しています。また、その他の事業としまして50周年記念誌の発行や、現在は閉鎖しております第3青峰寮の建物の改修に着手する計画になっております。完成までには数年かかりますが、これにより50周年記念ギャラリーや、同窓会との連携、国際交流、環境教育、創造教育、課外活動などを推進する総合的な機能を持った施設へと生まれ変わるようになります。また、前述しましたようなこれからの工学教育に求められる国際性や創造性を育むエンジニアリングデザイン教育を推進・充実するための「先進的エンジニア教育支援基金」を創設することといたしました。50周年は鈴鹿高専にとって記念すべき年ではありますが、60年、70年そして100年に向けた通過点でもあります。鈴鹿高専はこれからも卒業生の皆様によって築き上げられた歴史と伝統を守りつつ、教育の高度化への対応や教育環境の一層の充実を図りながら、日本の科学技術の発展に貢献できる優秀な技術者を社会に送り出し続けなければなりません。その点を強く意識しながら50周年記念事業を企画いたしました。実施にあたりましては本校の教育後援会、青峰同窓会、企業ならびに個々の卒業生の皆様からの厚いご支援とご協力をお願いすることになるかと思えますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## 新任教職員

「鈴風」より転載

### 生物応用化学科

### 船越 邦夫



4月に生物応用化学科に着任致しました船越邦夫と申します。専門は化学工学で、特に物質の結晶化現象を利用した有機化合物の分離・精製や製品の粒径や形状、結晶構造を制御する結晶化学(晶析)です。本校では化学工学と反応工学、移動現象論の授業と応用化学コース実験を担当しております。

私は東京農工大学大学院を修了後約10年間、東京農工大学や産業技術総合研究所にてポスドク研究員や特任助教をしていました。その間、結晶化学を基礎として、歯の成分のヒドロキシアパタイト結晶の電気化学的性質の解明や、光触媒のanatase型二酸化チタン結晶やニッケル-水素電池の材料である水酸化ニッケル粒子の製造法、有機化合物を連続的に分離・精製する装置や氷スラリーを用いた空調システムの開発などの研究を行ってきました。この様な経験を生かし、物質を結晶化させる際に添加物を加えて化学反応や結晶化の速度を変化させ、機能性に優れた粒子を製造する方法の開発や、その基礎研究を行う予定です。興味のある方はお気軽に教員室にいらしてください。

私の専門の「化学工学」について少し説明します。実験室内で試験管やビーカー等にて作った物質をプラントで大量に製造しようとした場合、装置の容量や攪拌翼の大きさを数千・数万倍にただけではうまくいきません。試験管でできたものをいかにしてプラントで作るかを考えるのが「化学工学」です。そのため化学に加えて数学や物理の知識も必要になるため、少々取っ付き難い学問かもしれません。しかし工場で実際に「もの」を効率よく少ないエネルギーで製造するためには欠かすことのできない学問ですので、毛嫌いせず勉強して貰いたいと思います。私も化学工学に対して興味を持ってもらえるようお手伝いさせていただきます。

本校に着任してまだ日が浅いため皆さまにご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

### 機械工学科

### 南部 紘一郎



4月に機械工学科に着任した南部です。よろしくお願ひします。私は鈴鹿高専材料工学科の卒業生で、卒業後は豊橋技術科学大学、名城大学と大学を変わり、また自分の母校に帰ることができ本当にうれしく思っています。

これまで大学院で学生をしながら、大学の非常勤講師をしていましたが本格的な講義を行うのは始めてで、自分の母校とはいえ学生の目線と先生方の目線がこんなにも違うのだなと改めて感じました。なんとか夏休みまでこぎ着けたので、夏休み以降はさらに教育、研究の幅を広げていければと思っています。

私の研究に関するキーワードは表面改質処理と疲労強度です。具体的にどのようなことを研究しているかと言いますと、自動車や飛行機などに使用される材料を壊れにくくするにはどうしたらよいかということや、新しい材料がどれくらい使用したら壊れるかということについて研究を行っています。

また、材料の表面の性質を変化させる表面改質処理を自動車のエンジン内の部品に施すことで、強度の上昇や燃費の向上を図るなど強度の信頼性に関する研究だけでなく環境問題に関する研究も行っています。大学、大学院の研究では企業との共同研究を中心に研究活動を進めてきましたので、高専でも共同研究を中心に進めていきたいと考えています。

学生の時には5年間弓道部で活動し、5年生のときには友人たちとソーラン同好会のきっかけとなる勝山組に参加して有意義な5年間を過ごすことができました。その5年間があったおかげで、4月から弓道部とソーラン同好会の顧問をさせていただいています。

まだまだ、教員としても研究者としてもスタートラインに立って少し走り始めたばかりで、右も左もわからないままですが、先生方や先輩方のご指導を受けながら一歩ずつ成長していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

## 電気電子工学科

## 山田 伊智子



みなさんこんにちは、4月より電気電子工学科に着任致しました山田伊智子です。教壇にたつのは鈴鹿高専がはじめてのため、当初は緊張でガチガチ、不安だらけでしたが、周りの教職員や学生の皆様に助けられ、ここまで何とかやってこられました。

私は現在、鈴鹿高専で教鞭をとるとともに、大学院で(こちらは学生として)「有機薄膜太陽電池」をテーマに研究を行っています。環境やエネルギー問題が取りざたされる昨今、太陽電池は大きな注目を浴びていますが、「有機薄膜太陽電池」という言葉はまだあまり知られていないでしょうか。通常、私たちの身の回りにあるプラスチックは電気を通しません。しかし、2000年にノーベル化学賞を受賞した白川博士の発表したある種のプラスチックは電気を流すことができます。この「電気を通すプラスチック」を材料とした次世代太陽電池が「有機薄膜太陽電池」であり、世界中で実用化に向けて研究されています。太陽電池材料の現在の主流は屋根の上ののっているものから電卓に付いているものまで、そのほとんどがシリコンです。このシリコンの代わりにプラスチックを発電層に使うことで、カラフルで薄く、自由に曲げられる太陽電池を作製することができます。

私のもともとの専門は「電気」です。しかしながら有機薄膜太陽電池は一般的な電気の分野だけでなく、「有機化学」や「電気化学」の分野の知識も必要され、いろいろな分野の先生方に多くのご指導をいただきました。また、過去に船舶検査官という仕事に就いておりましたが、それまでほとんど関わりのなかった機械や造船の分野でも、先輩や現場の方々の指導と助けにより、たくさんものを糧とさせていただいてきました。受け取る側だったこれまでとかわり、広い分野での経験や、多くの方々に支えられたことを、今度は学生さんたちへと返していけたらと思っています。

まだまだ未熟ではありますが、精一杯がんばっていきたく思いますのでこれからよろしくお願いたします。

## 生物応用化学科

## 甲斐 穂高



皆さん、初めまして。平成23年4月より生物応用化学科の助教に着任致しました甲斐穂高(かいほたか)と申します。私は長崎大学で環境科学を専攻し、環境負荷の低い水処理手法の開発と環境影響評価について学んできました(分かりやすく言うと「環境にやさしい排水処理方法の開発と評価」です)。大学院修了後は、大阪の専門学校で分析化学の教員を2年間勤めました。これらの経験を活かして、本校では「環境工学＝様々な環境問題を技術的に解決するための方法について」と「分析化学＝環境問題を化学的に解決するために必要な基礎知識」を担当します。

私は、高等専門学校の教員の使命は「社会で即戦力として活躍できる技術者を世の中に送り出すこと」と、考えています。即戦力として活躍するために必要なことは、本校での授業や実験、卒業研究を通して身に見に付けることができます。しかし、単に学校で学ぶだけでは、これを達成することはできません。この過程で「物事の見方や考え方を学び、そして感性を高める」が必要だと思います。私は、このためには、「様々な人の意見や考え方を聞いた上でそれを取捨選択して自分の考え方の基軸を構築すること」と「様々なことに挑戦して様々なことを体験すること」が大切だと思います。私は、時間の許す限り、約30年という短い人生経験の中ではありますが、これまでに挑戦してきたこと(勉強、課外活動、研究、仕事)、その中で体験や失敗したことなどを学生の皆さんに紹介していきたいと思っています。私の挑戦してきたこと、体験談や失敗談を聞いていただければ何かしら「ビビッ」と感じ、学生の皆さんがこれからの社会で活躍していく上で必要な「物事の見方や考え方を学び、そして感性を高める」ことに繋がれば、私の教員としての使命を少しばかり果たせていると思います。

この気持ちを忘れずに頑張ります、どうぞよろしくお願いいたします。



## 材料工学科

## 幸後 健



はじめまして、こんにちは。このたび、材料工学科の助教に赴任しました幸後と申します。寮広報誌「青峰」にも書いたのですが、自分は大人しくシャイな性格ですので、皆さんの方からお声をかけて頂ければ幸いです。

実は私も高専出身なのですが、中学校からの入学ではなく普通高校から北九州高専への編入学という特殊な経歴で入学しており、そのまま本科、専攻科、大学院へと進んで今に至ります。編入当時はかなり大変でしたが、先生方のサポートのお蔭でなんとか無事専攻科まで卒業できるに至りました。そして、その時にお世話になった先生方に憧れ、恩を返す意味も含めて技術や知識を教育する仕事に携わりたいと思いました。鈴鹿高専の先生になれたことは、自分にとって非常に嬉しくあります。今後、お世話になった先生方を目標に、精一杯精進していきたく思う次第です。

さて、自分の学生時代を振り返ってみると色々あったなあと思えます。本科や専攻科の時は、授業後の休み時間や研究の合間に同級生や後輩先輩とサッカーや野球をして汗を流し、気分をリフレッシュして研究室に泊まり込んで実験などしておりました。自分の研究室が学生だけでなく何故か他の研究室の先生のたまり場にもなっていて、よく僕が淹れるコーヒーを飲みに来る先生方がやってきて雑談していたのも楽しい思い出です。その他、休みの日にカラオケやボーリングにと、たぶん今の学生さんと変わらない生活だったと思います。大学院に進学してからは、体を動かす時間が減り研究時間と飲み会が増えただけで殆ど変わらない生活でした。

楽しい思い出やつらい思い出と色々ありましたが、学生の身分では無くなった今の自分には全て懐かしく思います。学生の皆さんも進学する人、就職する人と様々いると思いますが、高専時代は一回きりです。悔いのないように、学生生活を充実して過ごしてください。私も同じく、鈴鹿高専で頑張りたいと思います。

## 同窓会総会開催予定について

鈴鹿高専50周年記念事業に関する同窓会の協力活動に関して、皆様のご意見を反映するために同窓会総会を開催する予定です。時期は3月下旬の土曜日あるいは日曜日を考えています。

詳細が決まりましたら、同窓会HP (<http://www.suzuka-ct.ac.jp/~almn/>) およびSNS (<http://seiho-dosokai.jp/>) でお知らせしますので、スケジュール表におおよその予定を書き込んでおいて頂ければ幸いです。

## 「卒業生名簿」発行について

「卒業生名簿」を5年を目途に発行しておりましたが、前回は発行を見合わせておりましたので、10年ほど新しい名簿は発行されていません。今年は鈴鹿高専の50周年にあたり節目の年でもありますし、名簿発行を望む声も同窓会員の皆様から届きます。そこでより広く皆様のご意見をおうかがいし、同窓会の50周年記念事業の一つとして検討したいと考えています。

もし発行することになった場合、これまでは皆様のご協力の下に同窓会で住所などの調査を行っていましたが、今回は前回からの期間も長くなっており、専門業者に依頼することになると予想されます。また、名簿への記載事項は氏名、住所、勤務先の3項目のみとし、電話番号は掲載しないことにしようかと考えております。

「卒業生名簿」の発行に関して、皆様のご意見をお寄せ頂けますよう、お願い申し上げます。

同窓会のメールアドレス: [almn@suzuka-ct.ac.jp](mailto:almn@suzuka-ct.ac.jp)



# 青峰同窓会ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) 開設のお知らせ

卒業生の皆様、お元気で活躍の事とお慶び申し上げます。さて、このたび、卒業生の皆様、教職員、および在校生を会員の対象とし、会員の皆様の間で交流深めていただきたいという思いから青峰同窓会SNSを開設しましたのでお知らせいたします。このSNSでは、登録会員の皆様全てにマイホームページを所有していただいたり、クラスやクラブ、卒業研究室単位、あるいは共通の趣味を持たれている同士など、色々な仲間とコミュニティを持っていただいたり、会員宛にイベント告知などができる機能があります。

まずは、下記URLより、手順に従ってご登録をお願いいたします。皆様の活発な交流がなされる事を願っています。

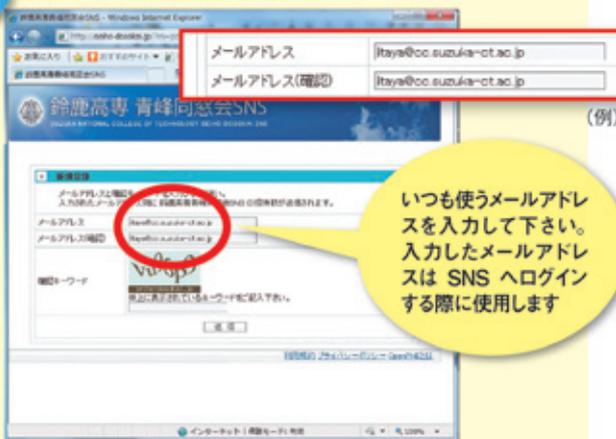
## ◆SNSの登録方法 <http://seiho-dosokai.jp/>

### 1 鈴鹿高専青峰同窓会SNSへのアクセス



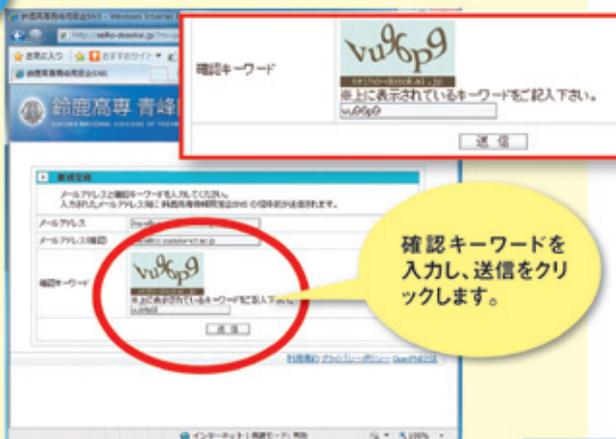
はじめて利用される方はこちらから新規登録を行って下さい。

### 2 メールアドレスの入力



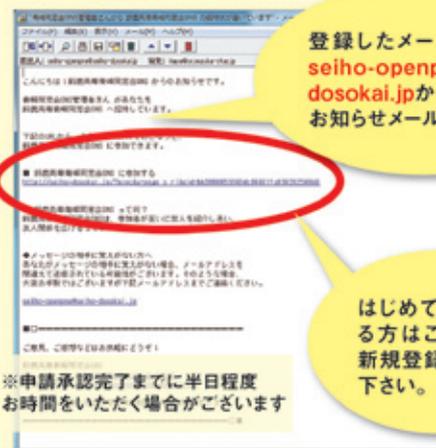
いつも使うメールアドレスを入力して下さい。入力したメールアドレスは SNS ヘログインする際に使用します

### 3 確認キーワードの入力



確認キーワードを入力し、送信をクリックします。

### 4 SNS招待状メールの受け取りと参加申請



登録したメールアドレスに seiho-openpne@seiho-dosokai.jp から SNS 招待のお知らせメールが届きます。

はじめて利用される方はこちらから新規登録を行って下さい。

※申請承認完了までに半日程度お時間をいただく場合がございます

### 5 登録完了のお知らせメールの受け取りとSNSへの参加



ここから、参加して下さい

登録したメールアドレス、パスワードを入力しログインして下さい。以上となります。